



平成16年度研修（パソコンによる統計分析）の概要（2）

経済関係企画職員研修【個別課題コース】「パソコンによる統計分析」

農林水産政策研究所では、「経済関係企画職員研修」として、先に実施した「基礎コース」に続いて、「個別課題コース」として「パソコンによる統計分析」を実施しました。統計分析はどのような部署においても必要とされる基本的なツールです。本講義では、講師が用意した練習問題に基づき、マイクロソフト・エクセルを用いて、基本的な統計量の計算、回帰分析の計算方法、計測結果の読み方等について講義と演習を行いました。以下、研修の概要と参加された研修生の感想をご紹介します。

1. 実施概要

実施期間：平成16年7月13日～8月31日（8月17日は休講）、毎週火曜日、計7回実施

研修場所：農林水産政策研究所霞が関分室（中央合同庁舎第2号館9階）

講師：稲葉 弘道（千葉大学法経学部経済学科教授）

2. 研修生の感想

「パソコンによる統計分析」を受講して

大臣官房情報課情報分析室 島田依佐央

「ああ、どんな分析をしたらいいんだ…」

今までこれといった分析もやったことのないわたしが、この4月から白書を担当することになり、不安な日々を過ごしておりました。そんな矢先に『パソコンによる統計分析』の研修案内が目にとまったのでした。もともと統計学に興味があったこともあり、迷わずこの研修を希望しました。

研修期間は約1ヶ月半、毎週火曜日の午前中という負担の少ないスケジュールで組まれており、しかも政策研の分室で開催されていたので、通うのに便利だったことが良かったです。

研修の進め方についても、単に理論や公式を教わるだけでなく、身近なデータを使っていろいろな例題を解きながら教えていただいたので、分かり易かったです。たとえば、

VTRの普及率の飽和水準の求め方など、たいへん興味深く思いました。

また難しい係数の計算なども、エクセルを使うことで、公式を覚えていなくても瞬時にでき、初心者でも比較的容易に分析に取り組めると感じました。こうしたエクセル機能の習得といった点も有益だったと思います。

ただ、研修内容のボリュームに比べ、研修期間が少し短いような気がします。たとえば、検定の部分など、もう少し時間をかけて講義を受けたかったです。このほか、見やすいグラフの作り方なども講義に盛り込んでいただき、引き続きこのような研修が継続されることを期待しております。

研修が終了した今、後は実践あるのみです。何かひとつでも研修の成果を活かした分析ができればと、心に願う次第です。

「パソコンによる統計分析」研修を受講して

生産局果樹花き課 漆間 利明

本研修の受講に関しましては、講師の稲葉先生をはじめとして、農林水産政策研究所の皆様大変お世話になりました。ありがとうございます。

当方は、入省して15年間生産局関係の仕事に携わっておりますが、これまでの業務の中で、何度か「回帰分析等を用いて将来の生産量や需要量、価格の動向等を予測する」や「価格異常値の除去」等の業務に携わってきました。実際に検討した際には、分析マニュアルを読み、エクセル等で推計を行ったのですが、分析の手法としては理解していても、計量経済学の基礎的な知識が不足していることから、算出された数値の意義等について必ずしも適切に理解をしていたとは言い難く、これを補うために今回の研修に参加しました。

今回の研修に参加した感想ですが、講師の稲葉先生の創意工夫もあり、実際にエクセルを使った例題の演習はとても参考になりました。また、研修のカリキュラムも実施場所も利便性が良く、通常業務の合間に参加できて大変受講しやすい研修だと感じました。物足りないと感じたところは、実際に業務でよく活用する回帰分析の部分です。今回の研修では最終日となりましたが、時間的な制約もあることは理解していますが、もう少し、例題等を交えて時間を十分に取っていただければと感じました。また、統計学の基礎知識の部分は講義が中心となっていましたが、例題による演習をもっと取り入れた方が理解しやすいと感じました。

以上、甚だ簡単ですが、研修を受講した感想です。

最後になりますが、稲葉先生をはじめ、本研修の実施に関してご苦勞をいただきました関係者の皆様に改めて御礼申し上げる次第です。

「パソコンによる統計分析」研修に参加して

経営局保険監理官補佐 吉武 朗

まず、講義いただいた稲葉弘道先生に厚く感謝いたします。

現在、農業共済事業を担当していますが、当該事業では国が指導監督とともに、再保険事業を行うこととなっており、再保険金の審査をはじめ、法令や通知による指導、事故低減のための損害防止事業等を行っています。

このため、多大なデータを処理するのみならず、その取りまとめを行うとともに、今後の事業を運営していく上でも、指標となる数値の分析や調査が必要であります。現在、ある程度の統計処理については、業務を通じて身につけてはいましたが、理論的な理解が十分でない点を感じるとともに、より合理的な処理を行うことで業務の効率化や事業分析が可能となると考えていたことが当該研修に参加することとした最大の動機です。

特に、農業共済事業については、昭和23年に発足してから半世紀を超えるデータの蓄積があります。これらの事項ごとのデータを他の関連事項や統計情報部が公表している統計データとの関係について、経時の変化を要因ごとに的確に分析していくことが、今後の事業のあり方に大きく役立つものと考えます。

また、今回の研修に参加しようと思ったもう一つの理由は、①研修日時が火曜日の午前中だけということ、②研修場所が中央合同庁舎第2号館ということで、業務の面から比較的参加しやすかったことです。

次に講義内容ですが、前半5回は非常にわかりやすかった反面、後半3回は時間が足りず、先生も大変苦勞されていたようですが、少しペースが速く理解できないものがありました。しかしながら、この研修で全てがわかってしまうほど、計量分析が簡単なものでないことは自明ですので、今後とも勉強していく必要があると痛感いたしました。また、講義終了後のフォローを十分に考慮していただき、フロッピーで講義内容を復習できるようにしていただいていること、参考となる書籍全般をはじめ、インターネット等を通じて計量モデルが得られることや先生への質問アドレスまでもお教えいただいている点については感謝に堪えません。

参加して得た成果としては、エクセル等に存在する関数の内容や統計学的理論が今までより自信を持って適切に使用できるようになったこと、直ちに利用できる効率的な操作方法を学べたことが挙げられます。

特に、標本集団における自由度の意味とその証明、回帰方程式を作成する上での理論、エクセルの分析ツールを用いた解析等です。

もう少し詳しく講義いただいたかったことは、「DW比」や「AIC」の意味、重回帰モデルや連立方程式モデルの推計法、「マイクロ AGNESS」の利用方法、2～3の説明変数がある場合の散布図等の作成方法（第三者に視覚的にもわかりやすい資料作成のため）等ですが、少し時間的に無理かもしれません。

今後の研修では、日程面でももう少し余裕ができるようにしていただければ、研修の成果が上がるのではないかと思います。

今後とも、こういう研修が企画され、多くの職員が参加することにより、適正かつ効果的な農政の運営、正しい展望の把握、国民へのわかりやすい資料の提供等が行われるようになることを期待しています。

最後に、当該研修を企画していただいた農林水産政策研究所の担当の方に感謝いたします。